

は140年前の逸話めた。そのための呼手助けする。担当す

これまで少年を多で少年と話す、家た後、授業で情報をする国について知る

48歳、4児の子育てをしてる父親です。常日頃、子ども達には、目に見える美しさだけでなく、心で感じる美しさにも触れ、感動する心を持ってほしいと願っています。

先日、御用邸記念公園で行われた沼津市茶道連盟秋季茶会で、私は表千家の土井宗達先生のもと、翠松亭でのお点前を披露させていただきました。初めての人前での茶席とあって緊張し、至らない点多々あったかと思

いますが、ご来席いただきましたお客様には心から感謝の気持ちでいっぱいです。当日を迎えるに当たり、先生が準備に心を尽くされる姿を間近で見えてきました。お客様に最良のひとときを提供したいと、一つ一つの茶道

具を選び抜き、軸を掛け、花を生ける。私もその思いに応えたくなり、前夜、高嶋酒造の富士山伏流水を汲みに行きました。

「利休は茶会を開く前に何度も露地を歩き、着物にかかりそうな葉や枝を落としたのですよ」

先生が、かつて稽古の際に話された言葉が来るまでの許す限りの時間、前日の荒天で荒れた露地の掃除をし、庭木に積もった松葉を取り除きました。

お茶会に臨むに際して自分なりの心構えを得ようと、お茶に関する古典などの本も読み漁(あさ)りました。その中で特に心に響いたのが裏千家前家元の千玄室さんが若き日に書かれたエッセイで

た。戦時中、千さんは特攻隊員に任命され、死を目前にした仲間達のために最後の茶会を開いたこと

点てた経験に裏打ちされているだけに、重みを感じられませんでした。

「周りの人がサポートするから、目の前のお客様に、おいしいお茶を点てることに集中しなさい」

社中の先輩から頂いたこの言葉を胸に、私は襖を開け、お辞儀をし、静かに

ではありません。自分が入りました。一椀のお茶を、いかに尊く美味しく差し上げるということに、どれだけ相手のかたに對する思いや

一椀のお茶

飯田理一郎

「素晴らしい席でした」と、おっしゃって下さいました。

その瞬間、心に大きな喜びが広がり、この日を忘れることはないだろうと感じました。先生のおかげで得た感動とともに、深い感謝の気持ち

お茶の古典『南方録』には茶の湯で大切なものに「三炭三露」があると説かれています。朝、昼、夜の三度炭を置くことと、三度露地に水を打つことで茶席に心地よい空気と潤いが生まれる。さらに「露」という字には、心の露、雨露の露、露地の露が含まれ、

深い意味があるとも記されています。お茶会前日の大雨も、落ち葉を洗い流し、庭木の緑を一層引き立たせてくれました。この雨は、まさに恵みの雨だったと感じます。しかし、誰かにとっての恵みの雨も、別の誰かには悲しい雨となることもあり

私もCM撮影でお世話になっている愛鷹教会水神社は、この大雨で甚大な被害を受けたと聞きまし

た。増水により土砂災害が発生し、本堂や食堂などが半壊。現在、境内は危険のため立ち入り禁止になって

います。愛鷹教会水神社は沼津の水の象徴でもあり、私達、沼津市民にとって大切な場所です。心よりお見舞い申し上げ、一日

も早い復旧をお祈りいたします。また、復旧した際には神社に足を運び、賽銭という形で寄付をした

私自身、未熟で日々学びの連続ですが、子ども達にも私と共に、目に見える美しさだけでなく、その奥にある思いや人々の努力、偉大な存在を感じ取る心を育んでほしいと願っています。

そのような心豊かな日々こそが、人生を彩り、子ども達にもかけがえのないものをもたらしてくれることになると思います。美しい景色や出会いに感動する心を持ち続け、子供たちとともにこれから多くの感動と学びの瞬間を分かち合っていきたいと感じています。

（原町中）